

後の問いに答えなさい。(二十点)

問 次の「一」内の漢字を組み合わせて三組の四字熟語を作るとき、使用しない漢字はどれか答えなさい。ただし、それぞれの漢字は一回しか用いないものとします。

- ① 〔一 一 一期 挙 句 歩 一 一 一 会 動 言〕
- ② 〔温 鳥 門 一 故 外 石 不 代 知 新 出 二〕
- ③ 〔開 心 自 口 以 由 存 一 心 自 伝 番 在〕

問 次の□に共通して当てはまる、体の一部を表す語をそれぞれ答えなさい。

- ④ □がなる □があがる □におぼえがある
- ⑤ □で息をする □で風を切る □をならべる
- ⑥ □をつぶす □が太い □に命じる

問 次の俳句の季節を春・夏・秋・冬のいずれかでそれぞれ答えなさい。

- ⑦ わが町の駅は夕立の跡あともなし 守屋真智子
- ⑧ 名月や池をめぐりて夜もすがら 松尾芭蕉
- ⑨ 若鮎あゆの二手になりて上りけり 正岡子規

問 次の——線部の語が最も近い意味で使われているものを、後の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

⑩ お目が高い

- ア 不合格の憂うれき目を見る      イ 温かい目で見守る      ウ 時代の変わり目に立ち会う
- エ 彼かれには絵画を見る目がある      オ 目が悪いので、よく見えない

⑪ 宿をたつ

ア 布をたつ    イ 月日がたつ    ウ 望みをたつ    エ ビルがたつ    オ たつ鳥後を濁さず

⑫ 手が足りないので手伝ってください

ア 時間があれば手を貸してほしい    イ 手がかかる子ほどかわいい    ウ そんな手には乗らないぞ

エ 世界のすべてを手に入れる    オ 悪い仲間とは手を切る

⑬ 大臣の椅子をおりる

ア 舞台の幕がおりる    イ ドラマの主役がおりる    ウ 空港で飛行機からおりる

エ 急いで山をおりる    オ 学校設立の認可がおりる

⑭ ただ食べてばかりだ

ア ただでは済まないだろう    イ ただの紙切れじゃないか    ウ ただ一度のチャンスだ

エ ただ気になることがある    オ ただ時間だけが過ぎていく

問 次の会話を読み、——線部⑮～⑱における主語・述語の対応の説明として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(なお、「何がどうする・どうである」という文では、「何が」を表す語句を主語、「どうする・どうである」を表す語句を述語と呼びます。)

Aさん 「⑮おなかが空いたね。今日の夕食は何が食べたい？」

Bさん 「おせちもあきたし、ラーメンが良いなあ。」

Cさん 「⑯わたしはうどん！」

Aさん 「そういえば、二人はお正月をどう過ごした？」

Bさん 「⑰家族と富士山で初日の出を見てきたよ。すごくきれいだった。」

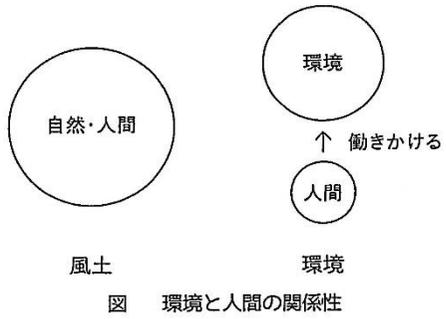
Cさん 「⑱わたしは初もうでに行つて、あとはずっと勉強していたよ。」

- ア 主語と述語が一对一で対応する
- イ 主語か述語のどちらかが複数ある
- ウ 主語か述語のどちらかが省略されている

問 太郎さんは、スピーチの中で南米のことを「地球の裏側」と表現したところ、ある人に「南米に対して失礼ではないか」と指摘ししてきされました。この人は、どのような点を失礼だと感じたといえるでしょうか。解答欄⑱ちひんに三十字以内で答えなさい。

次の文章は、工藤尚悟著『私たちのサステイナビリティ―まもり、つくり、次世代につなげる』の一節です。「サステイナビリティ」という用語は「持続可能性」と訳されることが多いですが、筆者はこの言葉を次の□内のように定義し、環境問題に取り組みようとしています。これをふまえて、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、本文を省略、改変したところがあります。）（五十点）

サステイナビリティとは、今日まで私たちの社会のなかで大事にされてきたことをまもりながら、これから新しく私たちの社会のなかで大切にされてほしいことをきちんと大切にできるような仕組みをつくり、さらにそのような考え方を次世代につなげる、という考え方のこと。



環境問題に対して具体的な行動を起こすことが難しいのは、環境よりも経済性を優先する仕組みになっているということと共に、①「環境」という言葉が前提とする人間と自然の関係性に原因があるのではないでしょう。環境問題について話しているとき、私たちは環境が観察でき、分析できて、より好ましい状態に変化させていくために、外部から働きかけることができるものとして扱っています。こうした前提において、環境に働きかける私（＝人間）は、対象である環境の外側にいるものとして扱われます。この様子を画にすると、ちようど図の「環境と人間の関係性」の右側のイメージです。

対象である環境に外部化されたところに立っていると、まるで気候変動という流行り病にかかってしまった「環境」という患者さんに対し、処方箋を出す医師のように、私（＝人間）は第三者的に環境と向き合うことになります。こうしたものの見方は、状況を俯瞰して適切な対処を考えるということにおいては有効ですが、こと環境については、人間も環境のなかにいる存在ですから、このとらえ方は実際の状況とのズレがあります。

さらに留意すべきことは、全ての人が医師になれるわけではないので、世の中の大多数の人々は処置を見守るといふ選択をします。その間、自分も流行り病にかからないように、手洗いやうがいなどの予防策に努めます。予防策に努めるのですが、意外と徹底するわけでもなかつたりします。なぜなら、万が一に病にかかっても医師が治してくれるだろうと高を括っているからです。病には治療法があるだろ

うと信じているのです。こうして徐々に、専門知識が必要な事柄については専門家に一任するようになり、やがて状況に対して自分で考えることを止めてしまいます。環境問題に関しても、専門家が処方してくれた技術や **a**「セイド」に従うことによって、地球生態系の **b**「キヨウ」範囲内で暮らしていける仕組みが社会に導入されるようになる日を安静にしながら待つ、ということが賢い選択のように思えてきます。

このように、対象を外部に切り出して、それぞれの分野の専門家に対応策を提案してもらおうという構造がつけられていくことで起きるのは、②「主語の留守状態」であり、やがて『環境』には『私』がない」という状態になります。「環境―人間」というように、③主体と客体を切り分けて物事をとらえることは、近代科学の基礎的な作法です。私たちはこの作法にすっかり慣れてしまっており、これによって導き出されることを客観的な事実とし、主観的な意見を凌駕するものとして扱ってきました。しかし、環境問題における人間は、環境それ自体の内側に居ますから、客観的な事実を導きだす当人の主観的な意見ははじめからそこに含まれることとなります。輪の外側をなぞっていたら実は輪の一部が捻れてつながって、いつの間にか輪の内側をなぞることになるメビウスの輪のような感覚かもしれません。こうした視点の捻れをどのように解消したらよいのでしょうか。私は、そのヒントが「風土」という概念にあると考えています。

環境 (Environment) の語源には「周辺」という意味がありますが、日本語には環境の他にも人間と自然の関係をとらえるときに用いられる表現があります。それは「風土」です。風土の定義に関する議論は色々ありますが、本書では以下のように考えたいと思います。

風土は、自然と人間のあいだにあるひとまとまりの関係のこと。「風」は文化・民俗を、「土」は土地・地域を表し、これらは互いに独立してあるのではなく、ひとつのまとまりとして不可分に存在する。風土の視点において自然と人間は、自然が人間をつくり、また同時に自然は人間につくられる、という相互に定義し合う関係にある。こうした相互に定義し合う関係を「逆限定の関係」と表現したいと思います。

④こうした自然と人間の関係性を絵にしたものが、図の左側のイメージです。

その上で、風土は「私たち」という主語で用いられるという特徴があると考えています。なぜならあるひとつの風土は、その風土が形成される地域に暮らす・関わりのある人々の間で共有され、語られるものだからです。風土は個人が認知できますが、個人が単独で形成することはできません。風土は常にある地域に暮らす・関わりのある人たち（＝私たち）を主語として語られます。例えば、「この町では」、「この地域では」、「うちらは」というような表現がこれにあたります。

このように、風土は「私たち」という主語を伴って、人間と自然とのあいだのひとまとまりの関係性を表しています。このことは同時に、個々の土地ごとに異なる風土があることを意味します。つまり、地域Aに暮らす私たちにとっての風土と、地域Bに暮らすあなたたち（地域

Aのそれとは別の私たち) にとつての風土は異なるということです。

⑤ 異なる風土を語るいくつもの「私たち」があることを認めることで、多元的な世界観を受け入れることができます。「環境―人間」というような、二項対立的な世界観における客観的対象としての「環境」では、全地球・全種的に共有しているひとつの環境があるということが前提になっていますが、複数の異なる「私たち」をはじめから内化している風土は多元的な世界を前提にしているのです。

風土では自然と人間が不可分なひとまとまりの関係としてありますから、この風土の視点においてサステイナビリティを考え行動する(「何をまもり、つくり、つなげていきたいのか」を考え行動する)ことが、ひいては自然をつくることになり、そうしてまた、つくった自然に人間がつくられる関係へ展開していくことと同義になります。このことを従来の「環境のサステイナビリティ」に対し、「風土のサステイナビリティ」と呼びたいと思います。

気候変動や地球温暖化に代表されるこれまでの環境問題の議論では、その影響範囲が全地球であることから、環境のサステイナビリティが重要視されてきました。この視点をを用いることで、地球環境の状態を俯瞰的に把握することはできるようになりました。しかし、実際に課題に向き合うc **ダンカイ**において、行動主体となる主語は見失われてきました。

環境のサステイナビリティの視点によつて観察・分析・介入を検討した情報は、状況に対する対処療法的な視点を与えてくれます。このような視点を片方に持ちながら、「私たち」という主語を用いてより実際の体験としての自然と人間の関係性についての情報を与えてくれる、風土のサステイナビリティの視点を d **オギナ**うと、今度は思考を展開している私を環境のなかに内化した視点から、日々をどのように暮らしていけばよいのかを考えることができるようになるのではないのでしょうか。

(工藤尚悟『私たちのサステイナビリティ―まもり、つくり、次世代につなげる』岩波ジュニア新書)

\*注 俯瞰||全体を上から見ること。

凌駕||他の者を凌いで上に出ること。

問一 a  s  d  のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ——線部①について、後の問いに答えなさい。

(1) 筆者は、どのような「人間と自然の関係性」のとらえ方に問題があるのでしょうか。解答欄に合わせて二十字以内で答えなさい。  
人間は ( ) である。

(2) (1)で答えたようなとらえ方にもとづいた、環境問題への対応の具体例として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 世界中で飢餓に苦しむ人がいるのを知りながら、消費期限が近いという理由で、大量の食品がゴミとして廃棄されてしまう。
- イ 放射能汚染の危険性を感じながらも、原子力発電の是非についてはよくわからないので、結局は科学者の判断にゆだねてしまう。
- ウ 環境の悪化が問題なのはわかるが、何から対策してよいかわからず、何となく支持者の多い政治家の言うとおりにしてしてしまう。
- エ 地球温暖化の一因が火力発電での二酸化炭素の排出だと知っていても、暑さに耐えきれず、エアコンの設定温度を下げてしまう。
- オ 乱獲などにより数が減っていると知りながらも、他人よりも多く金を稼ぐために、希少な動物を捕獲し販売してしまおう。

問三 ——線部②とありますが、どのようになると言っているのですか、四十字以内で説明しなさい。

問四 ——線部③とありますが、ここでの「近代科学の基礎的な作法」を用いたものとして適切でないものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 天体望遠鏡で宇宙を観察することで、全ての惑星が太陽の周りを公転するという学説を裏付けた。
- イ リンゴが落下するのを見て、全ての物質は互いに引き寄せる作用を及ぼしあっていることを発見した。
- ウ 大きさの異なる二つの物体を同時に落とすと同時に着地したことから、物体の落下時間は質量とは関係ないことがわかった。
- エ 同種でも生息場所によって体の形が違うことから、環境に適した個体が生き残ることで種が共通の祖先から分化することを知った。
- オ 化学物質による海洋の汚染が、そこに棲む魚だけでなくそれを食べる我々にまで影響したことから、生態系全体の破壊を警告した。

問五 — 線部④とありますが、図の左側のイメージについて説明しなさい。

問六 — 線部⑤とありますが、これにもとづくと、今後どうしていくことが考えられますか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生態系の影響を受けにくい大都市圏けんよりも、影響を受けやすい農村の風土を優先的に守るようにする。

イ 環境保全も大切ではあるが、人類の文明の象徴しょうちゆうである経済発展をも考慮こうりよに入れバランスを維持いじしていく。

ウ 地域ごとに形作られた文化の違いを認め合い、互いに尊重しながら自分だけの利害関係にとらわれないようにする。

エ 地球温暖化の影響で海面が上昇じやうしやうし、国土が小さくなっている太平洋上の国々を守ることを最も重要な課題として考えていく。

オ 環境や経済、社会のあり方を関連させて考えるのではなく、一つ一つを独立した固有のものであるととらえるようにする。

問七 — 線部とありますが、筆者はこの問いの答えをどのように考えていますか。本文全体をふまえて、わかりやすく説明しなさい。

問八 本文の解釈として正しいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私たちは近代科学の作法によって、客観的に事実を見つめることができるかとされてきたが、問題解決には役に立たなかった。

イ 自然は人間と不可分な関係にあるので、今後も環境にやさしいエネルギーとしての利用価値は高まっていく。

ウ 従来の「環境のサステイナビリティ」という考え方を改め、「風土のサステイナビリティ」を大切にすべきである。

エ 「私たち」という主語を用いることで、環境問題を自分の事としてとらえ、かつ風土の多様性を認めることができる。

オ 環境とは自然と人類全体の一つのまとまりとしてとらえられるべきであり、ある個人の主観的な欲望を考慮に入れてはならない。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(五十点)

山口卓也たくやは小さいころから野球一筋、小学校では有名なピッチャー。野球をするため私立の中学に行きたかったが、金銭的なこともあり、あきらめるしかなかった。家の花屋の仕事もいやや手伝っている。清田きよたは昨年両親を事故で亡くし、九州から上京し、叔母おばの世話になっている。中学で野球部に入った二人はバッテリー(ピッチャーとキャッチャー)を組むことになった。もともと清田もピッチャーとして自信を持っており勝負をいどんだが、卓也の投球に舌を巻き、自らキャッチャーを志願した。担任の志水先生しみずは新米でとても泣き虫。

身の回りのことを自分の言葉で書けと言われても、何をどんな風に書いていいか、卓也には全然分からない。清田も今ごろ、班ノートを書いているのだろうか。どんな文章を書いてくるのだろうか。気になるが、そんなことより自分の班ノートを書かなくてはいけない。

店のざわつきが気になる。母親の「ありがとうございます」のかん高い声がイラつく。父親のせいで店番させられることがムカつく。そう、イヤな店番のことを書こうと思った。でも、言葉が出てこない、出てこない。とあせって、イライラしている内に、店番のイヤな気分が、ちよつとずつ言葉になって出てき始めた。ひとつずつ書きつづっていくと、班ノートを2ページも使っていた。

みんなが書いている文章とは **A** ちがうと思ったが、<sup>①</sup>野球で得られる充実感じゅうじつかんとは別の感情が、卓也を満たしていた。こんな気分は初めてだった。

翌日の朝のホームルームの後、卓也は志水先生に班ノートをわたした。

「おお、山口、本当に書いてきたんだ。これはおどろきだな。清田はどうだ？」

教室の後ろの席にすわっている清田に向かって、志水先生が声をかける。

「書いてません」

清田は相変わらずのふてくされ声で答える。

「でも、必ず書いてこいよ、いいな」

志水先生が念をおすが、清田はそれには答えない。志水先生はそれ以上言わずに、卓也の班ノートを開くと、卓也の書いた文章を目で追っている。読み終えて頭を上げた志水先生の目には涙なみだがいつぱいたまっていた。

「山口、これは詩だよ。 **B** 詩だ。いい詩だよ」

先生に「いい詩だ」「いい詩だ」と言われても、何が「いい詩」なのか卓也には分からないが、**C**、「いい詩だ」とほめられたことがうれしかった。卓也は自分の席にもどりながら、昨日、班ノートを書き終えた後と同じ、妙みょうに豊かな気分になっている。

席に着いて前を見ると、志水先生が卓也の詩を、黒板に書き始めている。

「宙ぶらりん」

ぼくの家は花屋  
町の小さな花屋  
店番していると  
子どもでもない  
中学生でもない  
おとなでもない  
なんでもない  
何だかわけのわからない  
宙ぶらりんのぼくがいる  
でも、同級生の女の子が  
お母さんと花を買いにくると  
宙ぶらりんのひもが  
ぷつんととつぜん切れて  
宙ぶらりんのぼくは  
どさつと花の上に落とされる  
きれいな花の上に落ちても  
花の水がひっくり返り  
店じゅう水であふれ  
いくらかがいても  
出られなくて

② あっふあっふと、

ぼくは水の中でも

宙ぶらりん

黒板いっぱい卓也の詩が書かれた。

タイミングよく、ホームルームのあとの一時間目の授業は、国語である。

③これは立派な詩だ。いい詩だ」

志水先生は声をふるわせて、同じセリフをくり返し、目には涙が光っている。

「みんな、この詩を小さな声で、各自、読んでみてください。〈花屋〉の言葉でクラスの誰が書いた詩か、大体みんな分かるだろうけど、そんなことはどうでもよろしい。この詩には、家が花屋であつても花屋でなくても、どんな子にも共有できるはずかしい、さびしい、いやだ……にげ出したい……それから、あとどんな感情があるかなあ……まあ、そういうマイナスの気持ちがあるが、表現されています。そして、そういう気持ちを〈宙ぶらりん〉という言葉で表したのがすばらしい。〈中途半端〉という言い方もあるが、それだと普通なんだ。〈宙ぶらりん〉という言葉を発見したことで、この文章が詩になり、全体が光り出したのです」

志水先生は、自分の言葉に感きわまり、涙を流している。泣いている先生を見て、クスクス笑っている生徒も何人かいるが、クラスのほとんどの子が、卓也の詩だと気づいていて、卓也の方に視線を向けてくるからはずかしくてしようがない。

「志水先生、もういいから、やめてよ。黒板消して、早く教科書にいつて！」

と、心の中でさげび続ける。さっきのほめられたうれしい気分などふつ飛んで、D顔が上げられない。

卓也は顔をふせたまま、2列先の清田を見ると、清田は、ひじをついた手にほおをのせて、aマドの外の遠くをじつと見ていた。

こういう教室の空気を、清田はどう思っているのだろう。班ノートでも、卓也に対する対抗心をむき出しにしてくるのだろうか。それとも、書くことがないと行って、ずっと班ノートを書かずに、志水先生に抵抗するのだろうか。

「……、班ノートからこんないい詩が生まれるとは思っていませんでした。みなさん、班ノートを書くのが面倒くさいと思わず、これから、正直に書いてください」

志水先生はズボンのポケットからハンカチを取り出し、涙をぬぐった。

その日の野球部の練習は声出しだけではなく、キャッチボールもさせてもらった。清田はすっかり卓也の球を受けてくれるが、ひと言も口を開かなかった。

それからしばらく経って、放課後、また、卓也と清田の二人が残された。

「山口、今日、清田も班ノートにいい詩を書いてきたんだよ」

「先生、わざわざ、山口に見せることないじゃないか！」

「誰でも読んでいい班ノートだから、一番最初に、山口に読ませたいんだ。山口、読んでみる」

「やめろよ」と言う、清田をしり目に、志水先生が清田のページを開いて、卓也に班ノートをわたした。角ばったきれいな字がきちようめん**に**ナラんでいる。

④ 「ひとりぼっち」

ひとりぼっち

ひとりぼっち

爆弾ぼくだんかかえて

みんなもひとりぼっちなのを

わかってるから

オレはひとりぼっちを

辛抱しんぼうできる

ひとりぼっち

ひとりぼっち

人を殴なぐりたいほど

みんなもひとりぼっちなのを

わかってるから

オレはひとりぼっちを

辛抱できる

ひとりぼっち  
ひとりぼっち

月がひと間を照らして

みんなもひとりぼっちなのを

わかってるから

オレはひとりぼっちを

辛抱できる

清田が班ノートを書いてきたのは、意外だった。卓也は漠然と、清田が班ノートをずっと書いてこないと思っていたからだ。それに、中学生とは思えないくらいきれいな大人びた字を、清田が書くことにもおどろいた。

卓也は声には出さず、目で追いながら清田の詩を読んだ。

清田の詩は、同じ言葉と\*フレーズのくり返しで、どの\*連もたった一行がちがうだけだ。それに乱暴でけんか早い清田が、〈ひとりぼっち〉や〈辛抱〉という言葉を使っていることが不思議で、卓也は胸の辺りがざわざわするような気分になった。

「どうだ、山口。清田の詩もいいだろ」

「はい。よかったです」

「どこがよかったか、言ってみろ」

「どこがって言われても……んっと、〈ひとりぼっち〉のくり返しが、読んでて気持ちよかったです。それに、なんだかへんな気持ちになりました」

「そうだよな。先生もそうだったよ。⑤山口の詩の〈宙ぶらりん〉も、清田の〈ひとりぼっち〉も、言葉はちがうが、つきつめていくと結局は一緒になるんだ、分かるか？」

「いや……分かりません」

「清田はどうだ？」

そう言っている志水先生の目に、もう涙がたまっている。

清田は、卓也に自分の詩を読まれることを嫌がっていた割には、ふてくされた態度を取りながらも、おとなしく二人のやり取りを聞いてい

たが、

「先生、なんでオレの詩で涙なんか出すんですか。やめてくださいよ」と、志水先生にからんでくる。

「いいじゃないか、涙出したって。詩に清田の心が見えて、自然と泣けてくるんだから、仕様がなないじゃないか」

「大人の男が、それも先生が生徒の詩を読んで泣くなんて、カッコ悪いですよ」

清田がどこまでも志水先生にからむのは、いい詩だとほめられたことに照れているからだ。

「でも、清田さあ、ぼくも、この詩、いい詩だと思う。だって、読んで、清田のことちよっと分かった気がした」と、卓也が言う。

「山口、詩でオレのことが分かるの？ 詩らしい言葉を辞書から拾ってきて、ならべただけだよ。オレの心から出てきた言葉じゃなくて、うその言葉ばかりで書いてるだけだよ。それを真面目くさって読んじゃってさあ」

「そうなの？ うそなの？」

「そうだよ」

「じゃあ、班ノート、書かなきゃいいじゃないか。その方が清田らしいよ」

卓也は思っていたことを、清田にぶつけた。

「放はなつといてくれよ。オレの勝手だろ！」

志水先生はポケットのハンカチで、涙と鼻水をぬぐうと、

「詩は、全部を本当の言葉で書かなくてもいいんだぞ。清田が詩らしくなるうその言葉を、辞書から拾って書いたとしても、言葉を選ぶという時点で、清田の心cがウツcされているんだ。だから、うその言葉はないんだ。ひとりぼっちという言葉はありふれた言葉だけど、ひとりぼっちという言葉と爆弾がくっつくことによつて、清田の心になるんだ」

卓也には志水先生の言っていることが難しく、よく理解できなかったが、うその言葉も本当の言葉になることがあるのだということ、先生は言っているのだと思った。

「この間の山口の詩の〈宙ぶらりん〉という言葉は、イヤな店番とむすびついて詩になったし、清田の〈ひとりぼっち〉は爆弾や殴るといふ暴力的な気分と合わさって、詩になっている。二人とも、知らず知らずに自分自身の本当の心を書いてるんだよ」

志水先生は、そう言葉を続けながら、また、涙と鼻水をd夕dらしている。

「先生、鼻水出して、カッコ悪いですよ。先生がさっき言ってたうそか本当かっていうなら、〈ひとりぼっち〉の言葉は、オレの本当の言葉

です。実際、オレ、ひとりぼっちだから」

「えっ、清田、ひとりぼっちなの？」

「お前はひとりぼっちじゃないのかよ」

「だって、ウチは花屋をやっているから、いつもお客さんや誰やかやいるし、口うるさい両親もいるし、商店街からはざわざわした音が聞こえてくるし、ひとりぼっちになりたくてもなれないよ」

卓也の反応に、清田が半笑いの表情をする。

「山口、お前はお坊ちゃんだからさあ、オレのひとりぼっちが分かんないんだよ」

清田が卓也をあおる。

清田が神社の空き地で、卓也のキャッチャーをやってくれと言った時、卓也は、清田と友達になれるかと思ったが、今は、友達になれないと思っている。清田が **トキオリ** 見せる、卓也を小馬鹿にする態度が気に入らない。

「お坊ちゃんだなんて、馬鹿にした言い方するなよ！ 清田にだって、ボクの宙ぶらりんが分かんないだろ！」

大家の息子むすこというだけで、いけ好かない木崎芳雄きざきよしおに父親がペコペコしている小さな花屋の子が、なんでお坊ちゃんなんだよ！

私立中学校にも行かせてもらえない家の子が、なんでお坊ちゃんなんだよ！

人手が足りないからって店番させられる子が、なんでお坊ちゃんなんだよ！

清田に言い返したいセリフが、卓也の頭の中をぐるぐる回っている。

すると志水先生が、

「いいなあ、**⑥**二人はいい友達になれるぞ。よかったなあ。二人とも初めて書いた詩で、お互いたがが、こんなに共鳴できるなんて、めったにないことだぞ。いい友達だ。いいか、たのむから、山口も清田も詩を書き続ける。絶対に書き続けるよ」

と、またまた、声をつまらせている。

**⑦**清田が、もう、うんざりだといわんばかりに、椅子いすから立ち上がった。

「先生、詩の話はもういいですか。オレたち部活なんです」

「おーそうか。ふたりは野球部だったな。ごめん、ごめん」

志水先生から **E** 解放された卓也と清田は、急いでユニフォームに着がえて、教室から飛び出した。

(ねじめ正一『泣き虫先生』 新日本出版社)

\*注 フレーズⅡまとまった意味を持つ語句。

連Ⅱ一定数の詩行が集まったもの。

問一  a  e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二  A  E に入る適切な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じものを二回以上使ってはいいません。

ア とにかく    イ ずいぶん    ウ じつに    エ まさしく    オ やつと    カ とても

問三 ——線部①とありますが、卓也はなぜ「別の感情」に満たされたのですか、三十字以内で説明しなさい。

問四 ——線部②とありますが、「宙ぶらりん」は「ぼく」のどのような状態を表していますか、説明しなさい。

問五 ——線部③とありますが、志水先生は卓也の詩のどういう点を「立派な詩」「いい詩」と言っているのですか、説明しなさい。

問六 ——線部④について、この詩における「ひとりぼっち」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分がいつこわれても不思議ではない不安を他者には分かってももらえず、結局は自分の心と対話していくしかない孤独を誰もが抱えているということ。

イ 自分の中にある不可解なもう一人の自分に浸食されていくのに、誰にも分かってももらえず、周りを威圧することで自分の弱さをおくしているということ。

ウ 自分の心がこわされていく不安におそわれると、恐怖から他者を攻撃してしまうが、逆に自分の内にある弱さに打ちひしがれているということ。

エ 弱い自分を見すかされないよう周りを威嚇しているが、他者に八つ当たりするしかない自分への劣等感はどんどん大きくなっていくということ。

オ 他人の視線ばかり気にしているにもかかわらず、自分のことを理解しない周囲の責任にすることで、自尊心を保とうとしているということ。

問七 — 線部⑤とありますが、このように志水先生が言った理由を説明しなさい。

問八 — 線部⑥とありますが、志水先生はなぜ「二人はいい友達になれる」と言ったのですか、説明しなさい。

問九 — 線部⑦とありますが、ここから読み取れる清田の心情を説明しなさい。

(このページで、問題は終わりです。)





